

2016(仏暦2559)年冬(1月)号(第97号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行

浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

「懐かしさ」にふれるということ

■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

■本願寺の本

えものがたり しんらんしょうにんごえでん
絵物語 親鸞聖人御絵伝

■編集後記

Photo

猿(申)年は荒れる年といわれているようです。この冬の天候も、「スーパーエルニーニョ」という言葉もあるようで、寒暖の差がはげしくて不順なようです。世情も荒れる年なのでしょうか。

住職 法話

「懐かしさ」にふれると「いこう」と

近年の、核家族、少子化といった社会問題は、当然のように仏事にも大きく影響を与えています。その中でも、葬送のあり方は、ここ数年の間に様変わりしています。「昔からこうするのが当たり前」という俗習めいた言葉は、敬遠される時代になりました。

ところで、佐久市に万行寺の拠点を移し活動していますと、浄土真宗という宗旨にこだわってお寺を頼ってこられる方が多く見受けられます。取りあえず近くのお寺さんにお葬式は頼もうかといった方もおられますが、浄土真宗の教えは、離郷りきやうをしても、どこ

か「懐かしい」教えであることに気付かされます。

先日、故郷が京都で、所属するお寺さんも京都にある方の葬儀のご縁をいただきました。遠方ということもあり、私はそのお寺さんの代わりにお勤めだけをさせていただくというご縁でした。葬儀が終わった後に、控え室で故人のことをたずねながら短いお話しをしたところ、喪主の方から、目を潤ませながらこんなお話しをいただきました。「私の仕事の都合でもって、長年、故郷も離れてしまい、お寺さんや仏事に関わりが無くなっていたためか、本当に懐かしい思いで正信偈しょうしんげを聴かせてい

ただきました。」子どもの頃からよく聴いていた、お寺さんの正信偈しょうしんげのお勤めを思い出したようです。子どもながらに、大好きなお寺さんとお話しをすることが本当に楽しみだったそうです。そんな「懐かしさ」がこころに響いたのでしよう。

この正信偈しょうしんげは、親鸞しんらんさまの作ですから、浄土真宗のみ読まれているものです。他宗にはありません。御同朋御同行おんどうぼうおんどうぎやうと言われるように、ご門徒もんとであれば誰しも、この正信偈しょうしんげを聴けば、「懐かしさ」と共に心安らぐ一時をいただけるのだと感じました。正信偈しょうしんげのお勤めが、本当の意味で人のこ

ころに響いた瞬間でした。

親鸞しんらんさまは、晩年は関東から京都にお帰りになり過ぎました。その訳はわかりませんが、心安らぐ懐かしい思い出の場所へ戻られたのではないのでしょうか。私も、長年過ごした場所を離れてみて、「懐かしさ」の大切さを味わわせていただいています。お念仏の救いに遇あうということ、は、この「懐かしさ」という感覚は欠かせないものなのでしよう。



く結ぶ絆から、
広がる「縁へ」

いん

⑨わたしがここに存在していること、そのものです。

く無常という真理く

砂場で、幼い子どもが、時の経つのを忘れて、砂山を作って遊んでいるのを見かけることがあります。

大地、砂つぶ、子どもの作業、これら一つひとつが原因（縁）となり、砂山ができあがります。この中の一つの原因が欠けても、砂山はできません。そして、やがて風が吹き、雨が降り、時間が経過して、砂山は崩れていきます。

色々な原因（縁）によって、形を変えていくのです。

いくつもの縁によって生まれ、また縁によって変化し続け、やがて元の形が無くなつていくありようを「無常」といいます。このように、「縁」と「無常」とは一对の言葉なのです。

多くの縁によって、この世に生を受けた幼子も、砂山が崩れて元の砂つぶに戻っていくように、やがては臨終の時を迎えなければなりません。だからこそ、急ぎ、仏とやらせていただく仏縁をいただかなければならないのです。

お釈迦さまは、「縁起」こそが真理であると説かれました。この世に生まれてきた者は誰も、「縁起」と「無常」の世界を免れることができません。

なぜなら、私たちの存在そのものが、「縁」でできた「無常」なものだからです。

親鸞聖人は「火宅無常の世界」と、「無常」について表現されました。私たちが生きるこの世は、燃えさかる家のように、たちまちに移り変わる世界なのです。やがては、この世での縁が尽き、終わりを迎えるなければならないのが私たちのありさまなのです。

そんな無常な私たちだからこそ、いつでも、どこでも、はたらいてくださっている阿彌陀さまの慈悲によって、仏とならせていただく。その教えに今、出あい、存在の根底から阿彌陀さまの慈悲の中で生きていくことが、何よりも大切な救いとなるのです。

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研

究所、重点プロジェクト推進室」より



～本願寺の本～

絵物語 親鸞聖人御絵伝

—絵で見るご生涯とご事蹟—

本願寺出版社/岡村喜史(監修) 1,080円(税込)

激動の時代を生き抜いた親鸞聖人のご生涯とその教えを絵巻から読み解く。

本書は、浄土真宗の寺院において報恩講や御正忌の際に内陣にお掛けする「御絵伝」と、その前で拝読される『御伝鈔』の解説書です。

親鸞聖人の曾孫である本願寺第三代宗主・覚如上人によって綴られた、図絵と詞書からなる親鸞聖人の最初の伝記。浄土真宗の本山から一般寺院まで各寺院が所蔵する「親鸞聖人御絵伝」をオールカラーの美しいグラビアで解説しております。

[本願寺出版社HPより]



図解 親鸞聖人の生涯の重要場面を、現代の視点から解説し、その背景や意味をわかりやすくお伝えいたします。

原巻 親鸞聖人の生涯の重要場面を、現代の視点から解説し、その背景や意味をわかりやすくお伝えいたします。

親鸞聖人の生涯の重要場面を、現代の視点から解説し、その背景や意味をわかりやすくお伝えいたします。

編集後記

本年も宜しくお願ひ致します。◆年があらたまって思うところは、年々、お寺を取り巻く環境が、急激な社会の変化についていけてないのではと感じるところです。「昔から…」という言い方をしますが、いつから話でしょうか。仏教二千年の歴史からみれば、時代に合わせて変わっていかなくてはとあらためて思うところ。◆連載している「ごえん」は、次回、十回をもって終わり、「くらしの仏教語豆事典」を再開します。普段、何気なく使っている仏教用語についてふれていきます。

